

# 出会い

第五十六号 平成二十七年一月発行

サラ・シャンティ  
神戸市灘区八幡町  
3-6-19 クレアル六甲 2F  
T/F: 078-802-5120

走りながら 祈る

清水 正博

68才の誕生日に合せ  
一風変わった名の本

『走りながら祈る…』

制御不能な神秘体験』を

新日本文芸協会きれいねっとから出版します。



これまで詳しく語って来なかった、なぜサラ・シャンティが生まれのか、その元になった阪神大震災時の神秘体験。その後の不思議な体験から、現在にいたる20年間の出来事、更にそこに至る若い頃からの人生を魂の視点からキッチリ書いてみたいと思いました。

何度も振り返って検証しても、内なる神と魂や霊性などを無視できないと確信に至ったからです。無神論者だった私が「人間とはいかなる存在か」と問えば、人と神が一体であり、大いなる存在に導かれて生きていると、答えざるをえない神秘体験があるからです。

サラ・シャンティと言うスピリチュアルな名前の道場を主宰するようになったのは、私は小学生時代から無意識の世界で魂と対話していたことに気づきました。それが高校時代にドタバタ喜劇、音楽活動などをして個性が開花した。

そんな延長戦上、1966年19才の時にメキシコへ行き、ギターを買ってマリアッチなど歌い、ビートニックの画家とアステカを巡ったり、芸術方面に関心を持って、将来は彫刻家になりたいと思ったり、中南米の文化や歴史を学んだり、アメリカを旅してヒッピー文化の反体制精神に憧れ、人種差別問題に怒り、人生観、世界観が一変しました。

1年半の旅を終えて帰国し、演劇やフオークソング活動を始め、そちらの方向へ進むかと思えば、世界中の若者の反逆、冷戦の東西対立とベトナム反戦、安保闘争、大学紛争の影響から、キューバ革命に興味を持ち、新左翼系のキューバ友好団体の設立に関わり、万博のキューバ人との交流、サトウキビ刈りで現地訪問し、キューバ領事館勤務に至った事、その後、神戸に帰り貿易会社に勤めつつ、気功、ヨガなど健康法に取り組み、古武道とトリアスロン、陶芸に熱中したこと。

阪神大震災で被災体験し、ビルを建築し、その流れの中で、インドの聖人サイババが起こす物質化現象を3度も体験したこと、サラ・シャンティが生まれたという事実。それは自分の意思ではなく、仕組まれた大いなる存在の意思であったこと。それが一体なぜなのかを問いつつ人生が始まりました。

1997年1月17日の大震災の2週間前に、私は三ノ宮の本屋に何気なく入り、その頃ベストセラーになっていた青山圭秀さんの三部作「理性のゆらぎ、アガステシアの葉、真実のサイババ」と「聖なる予言」という本を買っ

てしまった。私の知らない不思議な世界に引かれ最後の4冊目「真実のサイババ」を読み終わって寝たのが16日の深夜でした。私の頭の中はサイババのことで一杯だったと思います。そして翌朝に巨大な揺れで起こされた時、恐怖感から一瞬「サイババさん何するんや」と思って目が覚めました。

そこから、不思議な体験が始まりました。大理石のヒンズー教のガネーシャ像がミルクを飲む、床からアムリタ（甘露）が出る、といった体験をさせられたのです。それは偶然ではなく、私の願った通りに起こしてくれたのです。私の意思が波動となってサイババに通じたと思わざるを得ない体験です。この体験からサラ・シャンティというスピリチュアルな名前が生まれ、活動の精神的中核になったのです。

あり得ない事が起こった訳ですが、世界の人口70億の中から私の意識をサイババが受信したのでしょうか？これほど具体的な体験をしてしまうと、身近な宇宙に意思を持った生命体が存在する、あるいは、その化身が地球のどこかに存在するのと言った疑問が生まれまます。見えない世界、オカルトなことに心を閉ざしては、この問題は解決できません。私たち一人一人が自分の魂や霊性に目覚めるといふメッセージではないかと理解したのです。

神秘の国インドからのメッセージですから、行ってみたいくなり、60才の定年が来るのを待ちました。定年退職時にサイババへのお礼参りに行き、次はインドの平和団体ブラーマクマリスから招待されて再訪しました。3度目は20

13年1月末にガンジス河の畔アラハバードのクンブメーラへの参加です。今回は1億人が集まったと公表されました。これだけの人が集まって、河で沐浴しても事故が起らない。もし日本で一か所に一億人集まったらどうなるでしょう。路上がゴミの山になり、清掃車が走り回る、食べ物屋が並び、公衆便所と排泄物、など想像もできない大混乱になります。それがインドでは整然と行われるのです。正に神秘の国、奇跡の国だという理解が必要です。

インドでは仙人のような苦行者・サドゥーは500万人近くいると言われ、その人たちが各地から集まってきました。残りの9500万人は熱心な信者さんたちなのでしょう。彼らは必要以上に食べない、排泄しない、争わない、執着しない人達なのでしょう。でなければクンブメーラなどあり得ないことです。インド人は日常的に奇跡を体験し、大いなる存在を身近に感じて生活している霊性の高い人たちなのでしょう。日本も昔は「名もなく貧しく美しく」の霊性を持っていたはずです。日本人と同じ霊性をインドで感じ取り、日印両国の友好のために何かしたいと思いました。

しかし最近、嬉しい事に日本でも精神性や霊性の大切さが説かれ、神秘的なことを体験する人が多くなってきました。サラ・シャンティは、そんな方々の集う場所として名前が知られるようになりました。講座をして頂いている先生方は、天の声を聞き、魂とつながり、与えられた使命に打ち込んでおられる方たちです。その元へ、同じ志をもった方々が自然に集まって来られるようになりました。

最近では、戦争体験を持つ80才代の3人にお会いし、その人たちのお仕事をお伝えする役目を与えられました。一人は新時代の農法を語る神谷成章さんで、すでに2度の講演を実現しました。次にベンジャミン・クレームの講演の上映会は殿本弘さんのご紹介でした。最後の一人がカタカムナの吉野信子さんの講座で紹介されている佐藤敏夫さんで「神の数学」を説かれ、サラ・シャンティでは4月から講演をしていただきます。

三人とも、カタカムナやフリーエネルギー、ハイテク技術に若い頃から関心を持たれて研究されていますので、そんなお話をきけるわけですから大変な責任も感じています。ですから2015年はいよいよサラ・シャンティ本来の使命を全うする年になりそうです。今この時期に本を書けたのも、予定調和だったので。20年の間「魂の存在」について、考え続けて来たことがお役に立ちそうです。

この時期に合わせて、キューバに対するアメリカの封じ込め政策が破たんしたニュースが飛び込んで来て、時代の変化を感じさせます。大好きなキューバのことも本の中で書いたので追い風になりました。そんな私の半生が書かれているのですが、よくよく振り返ると、どうしても子供の頃まで遡ってしまいました。歌が好きで、場所をわきまえず唄ったり、ウクレレを弾いてコントを考えて、トリオ・ロス・クレージャーというお笑いグループを作って人を笑わすのが好きだったり、母親が「お人好しは損するよ」とよく心配していました。

一方、物思いにふけ、ボーッと考え事をする性格がありました。教室で外を見てボーッとしていると、先生の目にとまり、注意されています。それが母親に伝えられ、心配して小児科に連れて行かれたことがあります。現在なら注意欠如多動性障害と診断されるかもしれませぬ。子供にとって大切な物思いにふける時間だと思いますが、今だと病気にされて薬を飲まされるそうです。

ですから、学校の勉強には興味が湧かず、成績は後ろから数える方が早い方。母親に成績が悪いと叱られ、家庭教師をつけられました。お陰で私は腺病質になり、何を食べても栄養にならず、ガリガリの体をしていました。ゲッターのユダヤ人なんて呼ばれ、自分で餓鬼草子にでてる餓鬼のようだと思われ、悲しい子供時代でした。しかし、その悲しみを紛らわすために歌やお笑いに救いを求めたのでしよう。

小・中学校は受験校でしたので、親が成績を心配したのは当然でした。それが大学までエスカレーターで甲南高校に入学してからは、まったく放任状態でした。この高校3年間で、好きな事を何でもできるように、自立つ事も好きで、1年生で演劇部に入り文化祭に出演、2年生でも面白い仲間とドタバタ喜劇を演じました。3年生ではカントリー&ウエスタンのヴァイオリンでデビューして人前で演じる度胸を磨きました。

バスケットクラブのマナージャもして人のお役に立つ事で充実感を味わいました。フォークソングも好きになり、何かと楽しい事を見つ

けて取り組んだのは、劣等感からの悲しみ、苦しみを克服し、自信を回復する手段だったのだと思います。人前で演じるのは人目を気にするとか、周りの空気を察することに敏感になったかもしれません。

心身の弱さと肉体的コンプレックスを克服したいという動機があったおかげですが、社会人になってからも武道やトライアスロンに必死になって取り組んでました。しかし、大きな転機があったのは45才の時でした。こうした私がしてきたことに一連のつながりがあることに気付いたのです。私が無意識にしていたことが、何かに導かれていたのだと気付いてから、私のような無神論者がなぜか、守護霊とか魂の事を認めざるをえなくなってきたのです。

杖道を始めて修験道に導かれ、お経を唱えながら走ったりして、心の中に変化が起こり始めました。自分から好きで始めたことですが、般若心経や「ありがとうございます」を唱えるようになり、自然に内観状態になり、それまでの人生を肯定的に思うようになり、生きているのがとても楽になりました。野坂礼子さんの「感謝行」を自分から勝手に始めていたのです。「ありがとうございます」を唱えながら走ると、すべてに感謝する心が無意識層まで届き、人生が変わりました。

その翌年に阪神大震災が来て、サイババの奇跡に出会うのです。こうした流れの中で、なぜ私ができるような奇跡を体験させられるのか？それも私が思った通りに実現したのですから、私の意識がサイババに届いたと直感し、意識と

は波動になって伝わるのだと確信できました。自分の意識の力で物事を実現して行く、思いは形になるということを確認できたこと。それが道場を運営して行く力になりました。

私自身がどのように自分の肉体的・精神的コンプレックスを克服したか、思春期から壮年期に至るまで、その世代ごとに、自分のしたい事を見極めて、なんでも挑戦した事、その中でも自分を見失わなかった事、他人の評価や常識に囚われなくなったこと。不安や恐れが無くなり生き方が楽になった事。といった相乗効果が生まれました。そうした生き方をしていくと自然に守護神、守護霊、大いなる存在が歩み寄って来て支えてくれたのかもしれない。

わたしの場合「走りながら祈る」ことによって、根無し草状態から、アイデンティティを確立するために自分の前世が今とどう繋がっているかを考え、自分の魂に忠実に生きる事、すなわち魂⇨命⇨遺伝子をオーブンにして生きていくことだと気付きました。

魂の存在に気付くと、宇宙エネルギー、無尽蔵にある気を使えるようになります。プラス思考や絶対積極の宇宙原理、すべての元は一つであること。内なる神の元がワンネスであることに気付けば、世界を不幸にしている集団主義的利己の集まりである古い宗教は不要となります。人類は早く宗教と科学の統合の時代が来てくる事に気づかねばなりません。

女性性の象徴であるアクエリアスの時代とは、唯物論から唯心論へ、モノ中心の時代から、

「魂」中心の時代へと価値観がパラダイムシフトしたということだと思います。

私がカタカムナの講座に取り組むのは、縄文文化の中に「日本人の魂」があり、それが現代に至るまで、日本語や日本文化の中核として残っている事。その日本文明が一度も海外からの侵略を受けずに現代まで守られて来た事実。

芸術から科学に至るまで世界最高の水準を生み出す根源的な力とは「日本民族の魂」なのだ。そんな思いで、日本人の魂の復活のお役に立ちたいと、「走りながら 祈る」を書きあげました。今後の企画にもその思いを反映して行きますので、ご期待下さい。

次の四つの文章は

- ① 大飯原発のおおい町出身、徳庄博美さんの麗しの国・若狭よりのお便り21
- ② 原発立ち入り禁止区域の南相馬市の同慶寺・仲禅寺のご住職、田中徳雲さんの近況は寺報冬号から転載させていただきました。
- ③ 長年の拠点、いわき市から京都に避難して3年目の橋本ちあきさんからの現況報告その2。ちあきさんは夫、橋本宙八さんとマクピオティックを40年以上以上研究、ご自分たちの合宿所をいわき市郊外に持つておられたのです。
- ④ そして、7 Generations Walk 代表として祈りのウォークを主宰されている山田圓尚さんからの近況報告です。

## 若狭（福井県）に

### ソーラー市民共同発電所を！

協力金募集

鍼灸師 徳庄 博美



皆様には常日頃サラ・シャンティ通信での原発立地若狭の自立や福島の放射能の生物除染などの様々なおねがいに対し、温かい応援をいただき感謝をしています。私は大阪での中学の教師の職を辞し、若狭に帰り鍼灸院を始めて十年になります。この十年は私にとって原発に依存する故郷若狭が自立するにはどうすればいいかと言う答えを見つけたための時間でした。そのために様々な取りくみにかかわってきました。

若狭の地域再生をめざした山川里海湖☆人・若狭ワッカフォーラム、森の再生と森のつながりの復活をめざした若狭森林（もり）の会、里山再生のためのNPO青の里などの活動を通して答えを探ってきました。もう一つは自分の精神的なありようを見つめ直す必要性を感じていました。私の今までの戦いの人生ではもはや未来は開けないという予感がありました。そして私は「一切だれとも戦わない」「目の前の人や状況を私の内がわが映ったものとして全て受け入れていく」「すでに若狭は甦っていることを信じて宇宙に委ねる」「自分が楽しめる事だけ、したい事だけをしていく」を精神的なスタンスとしていく事を心に誓いました。

そして3・11福島原発事故。恐れていたことが起こってしまいました。そして大飯原発の再稼働を巡る全国的な議論がわき起こりまし

た。そしてこの流れの中で出会った仲間と。いみらい塾を立ち上げました。いみらい塾がめざすのは健康で持続可能なおおい町を生み出していくこと。そのために再生可能エネルギーの普及・導入を勉強していくというものでした。

そこで太陽光発電所普及の可能性の検討、薪・ペレットストーブの導入の検討、岡山真庭のバイオマスタウンの見学、藻から油を取る農場建設の検討、さらに個人的に水を触媒によって酸素と水素に分解し燃料とする技術の実用化などを探ってきました。しかしどの道も実際に進めるとなると様々な課題があつてハードルが高く、当面取り組めるものとして、太陽光市民共同発電が浮かび上がってきました。

そんな時すでに太陽光市民共同発電所の設置実績のあるエコプラン福井さんが全面的に協力しよう、と申し入れを行って下さいました。そこで今年に入り若狭ソーラー市民共同発電所のプロジェクトが動き始めました。そして貸して下さる屋根も見つかり今資金集めに走り回っています。そこで皆さんに協力金、あるいは出資をお願いしたいと思います。以下の呼び掛けの文を見ていただき、応援を検討したいだけだと有り難く思います。

なお詳しいチラシはパソコンで「o.o.iみらい塾」で検索すると見ていただくことができます。それをダウンロードの上、チラシを印刷していただければと思います。そこには申込用紙もありますのでそれを送っていただくと受け付けさせていただきます。なおパソコンをお持ちでない方は私（徳庄）の所へメール、または電話

で連絡をしていただくのと申込み用紙を郵送させていただきます。最後に連絡先を書かせてもらっています。

原発が無くても幸せに生きていける世の中を生み出していきたいと思えます。皆さんの協力を頂ければと思います。宜しく願います。

\*貴方の協力金がソーラー発電所設置資金に  
なり同時に若狭の農林水産業も応援します\*

「若狭つながり市民ソーラー」について  
地球温暖化の影響による異常気象や福島原発事故を目の前にして、環境負荷が少なく、より安全な再生可能エネルギーの推進を願う声が高まっています。政府もこれを方針とし固定価格買い取り制度を定めました。

そこで、私たちは電力供給地である若狭地域と電力の消費地の市民が一緒になって太陽光発電所「若狭つながり市民ソーラー」を設置することを計画しています。これは市民の方々から募った資金で太陽光発電所を設置し、それにより人と地域の新たなつながりを生み出し、私たちが使うエネルギーについて考え、持続可能な社会を生み出す一歩にしていきたいと考えています。発電による売り上げを自然豊かなおおい町の特産品に換えて、協力金にご応募いただいた皆様にお届けします。こうして若狭で頑張っている農林水産業者を応援します。

### 協力金のお願い

協力金は、1口5万円で60口募集します。  
毎年5000円相当（送料込み）のおおい町の

特産品を10年間お届けします。

(●寄付金も募ります。金額は定めません)

選べる4つの特産品のコース

1、特別栽培米コース…契約農家の減農薬米をお届けします。

2、山里コース…おいしい町特産のじねんじょ(山芋)

蕎麦、しいたけ栽培キットをお届けします

3、木炭コース…環境に優しいエコな暖房に、浄水用、除湿、消臭、部屋・土地の活性化におおい町伝統の木炭・木酢酢をお届けします

4、おまかせコース…無添加みそ、栃餅、完熟梅干し、梅ジャム、へしこ(鯖の糠ズケ)漬物セット、町産牛肉その他特産物から選ばせてもらいます。

※協力は、寄付金扱いとします。歳暮時期お届けを予定しています。なお発電が順調でなかった場合等には商品の変更やお送りできない場合もありますのでご了承ください。

**\*若狭問い合わせ先**

**協力団体 NPO ooiみらい塾**

徳庄博美(鍼灸院フオレスト)

TEL: 0770-52-6880(090-1135-3758)

MAIL: inochi.h@yahoo.co.jp

http://ooi-mirai.wafull.jp/

「若狭つながり市民ソーラー」の事業概要

1、「屋根貸しモデル」制度を使って若狭地域3軒の住宅と滋賀県高島市の農業団体の屋根を借りて、合計30kWの太陽光パネルを設置し、国の固定価格買い取り制度に基づき産業用として20年間全量売電を行います。

2、この事業は、NPO法人エコプランふくいコーディネートし、ooiみらい塾とふくい市民発電所を作る会の協力のもと、(株)ふくい市民発電所が事業主体になってすすめる県内10番目の市民発電所です。資金調達計画

画計1、100万円

## 南相馬からのお便り

南相馬市 同慶寺 田中 徳雲

今年を振り返って(平成26年12月)

(同慶寺の寺報より抜粋)

赤や黄色に美しく色付いた森の木々。強い風が吹いて、その葉が飛ばされているこの頃、いよいよ冬の訪れですね。朝晩すっかり寒くなってきましたが、みなさま体調にお変わりありませんでしょうか？今年も残すところあと僅かとなってまいりました。

みなさまにとって、今年はどうな年でしたか？ 原発震災から丸三年を迎え、四年目に入った避難生活。まだまだ厳しい状況に変わりはありませんが、僅かでも進展したこと、ようやく状況の把握ができてきたこと、課題が見えてきたことなど、動いたら動いた分の成果はあったことと思われまます。

私にとって今年、避難生活の疲れもあるのでしょう亡くなられた方も多く(同慶寺と仲禅寺を合わせると四十六人)、また檀信徒の方々の新居購入に伴う仏壇点眼供養(魂入れ十九件)と、県外での講演依頼(十件)、そして同慶寺での被災寺院研修受け入れ(十七件)など、たいへん志事の多い年でした。

その中でも大きな出来事の一つに、三月十一日の宗教宗派を越えて行われた合同慰霊祭と、その後にお寺から青森県大間町までご供養して歩かせていただいた「命の行進」への参加がありました。心身ともに大変厳しい行ではありましたが、得させていただいたことも、その分、



大きいものでした。支えてくださったみなさまがいたからこそ出来たことです。ありがとうございます。重ねて感謝の気持ちでいっぱいです。

またそのご縁で、ネパールの仏教会から御仏舎利(お釈迦様のご遺骨の一部)を拝受させていただきました。ことになりました。まったく驚くべき展開です。こんなことは望んで開ける道でもありません。振り返ってみても全てお導きだと思っております。私たちに繋がるすべてのいのち、ご縁に感謝して、それにふさわしい生き方をしたいと思っております。仲良く坐禅をし、同じく慶ぶ寺を目指しましょう。

遅かれ早かれ私たちもいつか必ず土に還る時が来ます。お金も名誉も何も持つてはいけません。裸同然で旅立っていくのです。その時に、堂々と先祖の元に還ってゆけますように…。「今、この瞬間、瞬間」をしっかりと生きていきましょう。それが、禅的「今、ここ」。修行即ち悟りの世界ではないでしょうか。(フェイスブック、田中徳雲で検索)

**ゆく年くる年がやってきます**

こちらも驚く展開が(笑)、なんと大晦日にNHKで放送の「ゆく年くる年」が同慶寺から放送される予定です。時間は十一時五十七分から二分間。もちろん全国放送です。

実は取材を受けるかどうかもだいぶ検討しました。単に「福島復興は進んでいますよ」的な軽い扱いを望んでいないからです。ですがまた、厳しい現状の中で生きる私たちの姿を伝えられる機会だとも思い、うけさせていただきました。

どうかみなさま、大晦日、除夜の鐘を撞きに  
来てください。震災前のように本堂前に短冊を  
用意しておきます。そこにみなさまのお祈りす  
ること、感謝すること今の想いを書いてくださ  
い。皆様の声が全国に届きます。みなさまが足  
を運んでくだされば盛り上がりります。感謝と祈  
りの年越しにいたしましょう。



どんな時でも思い出そう〜！  
いのちを大切にすまは、

私達みなの中に在ることを

橋本 ちあき

こんにちは。

総選挙のさなかの今日、私は期日前投票に行  
ってきました。通信が届く頃には結果が出てい  
ますね。どのような結果が出ようとも、どのよ  
うに転んでも、「国民が選んだ結果」というこ  
とには変わりはないです。

そして、選ばれた・決められたその方向に進  
む。それに私達はみな巻き込まれ翻弄される。  
これも間違いないでしょう。個人個人は本意  
であっても、流れの中に居るといふその自覚が  
持てるかどうか。私はここまで問われている気  
がします。波に飲まれ溺れないために。

これは、原発事故後私が痛切に学んだことの  
一つです。正直、政治に絶望や怒りを感じる事  
がない訳ではありません。でも、同時に一方で、  
私は信じていることがあります。

「国や社会の構造がどうであれ、それとは別に、

人々の心は信じられる！」

思い出します。3年半前の震災と原発事故直  
後の日本中が不安定な時のことを。被災した私  
達は車であちこちへと移動していて、いろいろ  
な新しい人に出会っていました。もちろん友人  
や家族を頼つての動きですが、それでも「着の  
み着のまま、（見えない）戦火の下を逃れる」  
的な感じでした。初めて体験する極度の緊張状  
態が続きました。（強いて言えば、好んで山奥  
でワイルドに生きていた私達は、それなりにタ  
フな人間の部類です。それでも放射能の脅威や  
政府対応を考えると、とても尋常ではないと感  
じていたのです。）

でも、その混乱絶望と緊張の中で、徐々に私  
に確たる思いも立ち上がっていたのです。「この  
国を信じれずとも・・」この国の人々は信じ  
られる！」でした。「全てをなくして着のみ着  
のままになっても、この国では生きていける！  
手を差し伸べてくれる人が居る！」本当にそう  
思ったのです。これは絶望の中では希望を感じ  
る強い光でした。

いわきナンバーの車で行く先々、皆さんが声  
をかけてくれました。心配してくれました。京  
都に身を寄せてからもそうです。たくさんの方  
の人々の愛に支えられていると感じています。

福島の人々が避難先で心なき声を浴びせられた  
とか、言われなき差別を受けたというニュース  
も聞きました。私が経験した中ではそのような  
事はありませんでした。ラッキーだったのか  
もしれません。でもそのラッキーさが私に確た  
る信念をもたらしてくれました。

「まだまだ信頼に値する人々が居るこの国は  
すばらしい」。そして、「信頼できる人たちと  
手をつないでいこう」と思えたのです。折れそ  
うになってもその思いが支えてくれたこの3  
年間だったと思います。感謝です。

そして今は、「未来に向けて、信頼できるよ  
うな人間たちが増えてほしい」と願いを持って  
います。

時々子育て中の若い方々にお話しさせて頂  
く事があります。その時に次のような話をしま  
す。

「たいていの人は皆、健康に生きたいと願いま  
す。人間の一つの身体は62兆個の細胞の集合  
体です。細胞が元気であればその人間も元気で  
す。でも人生の自然な流れの中で、細胞が疲れ  
たり傷んだりする事もあります。でも、もしい  
くつかの細胞がそうなたとしても、それを修  
復しようとする力が私達の身体にはあります。  
生きていく限り。それが生命力、自然治癒力と  
いう素晴らしい力です。」

私は社会も同じだと思えます。社会と身体を  
置き換えて考えてみてください。私達ひとりひと  
りが社会を構成する細胞だと思ふのです。同じ  
構造でできていると思いませんか。細胞のバラ  
ンスで社会の健康度も決まります。ならば、ひ  
とひとりひとりが社会を健康にする生命力・修復力  
になりうるのです。

社会の一員としての健康な有りようとは？と  
自分に問いながら、それぞれが未来をどのよう  
な社会にしたいかしっかりとビジョンを描いて、

それを子ども達の上に育てていきましよう」と、若い人達にお願いしています。私のようなシニア世代がそれをサポートできたらと思うのです。

今、数人の女性達と企画していることがあります。女性達のいのちを大切にしている感性を社会で強くしていきたいと願って、「女たち、いのちの集い（仮）」を来年京都で開催する予定です。いのちを大切にできない社会に危機感を抱いている普通の女性達、仲間達が自然に集まっています。小さな動きでも大切な心の本質は波紋のように広がる、広げたい！と思っています。政治がどうであれ。

いのちを大切にしている社会が実現するまで諦めないと希望を持っている強くしなやかな女性たち、2015年5月16日、是非、京都に集まって下さい。

## 母なる地球の愛や命の理

と放射能 戦争

現代社会のギャップを

ついでに埋めたいか？

7 Generations Walk

代表 山田 圓高



私達は母なる地球の上に生きる命として皆つながって一つです。デニス師はよく言います。

「地球は母で空は父 月は祖母で太陽が一番上の兄です。生きとし生けるものは皆繋がっていて親戚で動物たちも鳥たちも魚も虫も皆親戚です。木々や草花とも特別な関係性で私達は結ばれています」本当にそうだと思います。

ネイティブと共に祈らせてもらったり、仏教の修行をしたり、ウオークをしたりしている時もそれを実感して、大いなるものに祝福され続けられました。

2012年にマヤの暦のサイクルが大きな一循環を終え、いろんな事が重なって、世界ではアセンションが叫ばれていました。

僕たちも、2012年は3月11日に沖縄から歩き出し、日本国内を約4000キロを歩いて11月3日に富士山に、ゴールするウオークをしました。厳しい道のりではあったけど、その間も、大いなるものの祝福に満ち溢れていて、7重の虹を見たり、富士山にゴールしたときの最後のお祈りの時も、空には奇跡が起こったのです。大いなるものに護られ、導かれていることを感じた素晴らしい体験をシェアすることができました。世界は一つに繋がっている！命の恵みに感謝して、大いなるものを讃える時は世界は幸せと祝福に満ち溢れるのです。ホントに命の光で世は明けるのだと感じていました。

しかし、2012年の11月に衆議院が急に解散して選挙になりました。自民党が圧勝してその後も福島からは放射能が漏れ続け秘密保護法が出来、集団的自衛権が容認されました。国は戦争という残酷な絶望の塊に再び向かっています。

その間も経済はまわり続け放射能や科学物質や遺伝子組み換えに汚染された物が多く含まれてもスーパーには今まで通り食べ物が溢れています。だから人は危機感を感じないのかもしれない。

それに対して私達は2013年は自然農での野菜や麦やお米作りを勉強しました。自然の循環の一部になるうとして、肉体と精神を使って働き恵みを得る喜び。自然農で取れたお米は力と命の喜びに溢れていました。そして、ホントに美味しかった！こんな風に暮らして、自然の循環と共に7世代先まで続く幸せを生きたいと思えました。ウオークで培った、精神と肉体を調和させるコツも、自然農には凄く役立ちました。肉体労働としては大変ですが、自然と共にある喜びを常に感じながら祈り歌い体を動かすことで、仕事ひとつ一つが幸せに感じられました。

私達が、自然や大いなるものからの祝福と喜びに生きる一方日本社会は何かがおカシイ！TPPや戦争のことを知ると余計に苦しくなりました。真実をこの目で見て感じたい！戦争のこともちゃんと知りた。第二次世界大戦で起こったことを学び亡くなった方々に祈りを捧げて、その命の繋がりの中で生きたい！と思いました。

そして2014年2月14日〜3月10日、神戸から東京まで7 Generations Walk for Peace.を行いました。僕はその時まで第二次世界大戦で日本人が何人犠牲になったか？も知りませんでした。国内では約70万人が犠牲になりました。国外で約240万人が亡くなったのです。しかし、日本軍が侵攻したアジア諸国では約2000万人の人が犠牲になっています。どんな悲しみと絶望と犠牲がそこにあっただのか？想像すら及びません。

1945年3月10日の東京大空襲では一晩で約10万人の方が亡くなりました。その犠

牲になった方々のほとんどは焼け死んだり、熱さに耐えかねて川に飛び込み溺れ死んでしまいました。人の死に方の中で、焼かれて死ぬのが一番辛いそうです。その状況を聞いた時、写真を見たりしましたが、その残酷さには目を覆いたくなるほどです。一人一人が焼かれるのも酷く残酷なことですが、それが約10万人もどのように殺されたのです。この戦争の悲劇はもう何にも例えようのない悲劇です。

そして、この悲劇を写真で伝えて下さった、石川光陽氏は厳しい規制を命がけでかいくぐってその記録を私達に伝えてくださいました。そのように事実を知り伝えることを規制され、言論を統制され、自由を奪われた人たちが大本営発表という、戦争の戦局が悪くなっているから虚栄と嘘に満ちた情報に惑わされ多くの人の命が奪われていったのです。

ホントのことが知れない、語れない社会。秘密保護法に同じ性質を感じます。Generations Walk for Peace の道のりで各地で戦争体験者のお話を聞きましたが日本各地でその悲劇は繰り返されていました。広島、長崎の原爆や各地での被害も酷すぎることは皆さんもご承知の通りです。

その後10月10日〜22日の間、Generations Walk for Peace in Jejuを行いました。韓国の南端のチェジュ島はもともとは耽羅(タンラ)王国という大地に根ざした文化のある豊かな島でしたが、中世以後、地理的な条件もあり、歴史上なんども他国に侵略され支配されてきました。

その、戦争の歴史の激しさから「死体が山となり、地が海になる島」と呼ばれているほどです。そして、最近では1948年の4月3日から1957年までの間、チェジュ島で行われた島民虐殺の事件、4・3事件は約8万人の犠牲者を出し、その陰惨さから、アウシュビッツを連想させるほどの悲惨な歴史が最近まであります。

そのチェジュ島で韓国や日本や東アジアの人で集まって、平和祭をしよう！という呼びかけに添えてチェジュ平和祭のお祈りを担当して参加することにしました。そして、それなら、その平和祭の前に島内を一周あるいて、慰霊と聖地巡礼をしよう！ということになったのです。慰霊の地では、その傷後は生々しく、その絶望を感じ、なんども参加者は涙を流し、ひたすらに祈りました。そして、聖地で祈る時には、チェジュの大地の力を感じ、聖山ハルラ山にも見守られてなんども、この世のものとも思えない美しい景色に遭遇し、素晴らしい体験をさせていただきました。

平和祭一日目には、春日さんの祈りの時に、ハルラ山から奇跡のように美しい雲が舞い降り、鳳凰の形をした雲の間から太陽が照らした時の神々しさは正に神話の世界でした。大いなるものの祝福をこちらでもいただきました。チェジュにお住まいの神々や精霊、自然や人々は真摯に平和を祈り願う者達を祝福して下さいました。そんな中、自然と日本人と韓国人とアジア人が国境など越えて仲良くなり、共に命を喜び祝った体験はなんとも美しく、平和に満ちたものでした。

東アジアの平和を考えることがリアルに日本の平和を考えることだと思えます。集団的自衛権を考えるよりも、東アジアとの連携を信頼と共に深め、お互いを知り合い、友達になることが平和の為に一番大切なことだと感じますし、私達はそれが出来るのです。相手を根拠もなく先ず疑ってかかるよりも、母なる地球の上に生きる兄弟として先ずは信頼してみる事が、本当の平和への道だと感じています。

しかし、日本は集団的自衛権を容認し、アメリカ軍との連携を強めようとしています。アメリカ軍が最近している事には疑問なことも多くあります。イラクなどで落としている劣化ウラン弾のことも気になります。9・11事件のことも気になります。アメリカは軍需産業に頼っている面も大きくあるようです。その事実を知った上で、なおかつ愛のままにいきられるかが私達の生命のテーマなのかもしれません。

東アジアの私達は仲間であり兄弟です。そのように在れることはチェジュ平和祭で実証できました。そして、アメリカの方々とも母なる地球の上に住む同じ命として繋がって親戚です。世界中の人たちと、世界中の生命と私達は繋がっているのです。デニス師たちがアメリカ政府の圧制と戦っていた1970年代の時も、その事は変わらず信じられていて、祈りの場でも実践されていました。その当時、AIMに深く関わっていた、大鹿村のカズさんが教えてくださいました。

その時、アメリカでAIMのネイティブ達とスエットで祈った時に、彼らの祈りの言葉を聞



いたそうです。ネイティブ達はその当時の大統領や家族達、白人達の幸せをも祈っていたそうです。例え、敵のように見えても、祈りの中、心では彼らとも繋がっていると知っていたのだと感じました。だからこそ、AIMのムーブメントはスピリチュアルムーブメントとして強く拡がりをみせ、ネイティブの生きる権利を護り続けて来られたのかもしれない。私達のムーブメントはどうでしょうか？この、日本未曾有の危機を認識しているのでしょうか？このままの秘密保護法や集団的自衛権、放射能や原発政策を進められて私達は大丈夫なのでしょうか？このままでは私達や子供達は大きく傷つくでしょう。その痛みを覚えないと、やはり私達は学べないのでしょうか？

確かにスーパーには物は溢れ、経済もまわっていて、水や野菜や肉や魚は誰かに供給してもらいガソリンも電気も誰かが運んでくれて私達は生活しているかもしれない。しかし、どうやってそれが作られたか分からないものを使っている事が多すぎる現代です。電気がどうやって作られたか知っていますか？ガソリンがどうやって来たか知っていますか？スーパーの食品がどうやって作られたか知っていますか？お金と引き換えにするだけで、それらがどのように得られるのか？その過程をほとんど知らない私達は、その過程に存在する、大きな罠や危険性を知ることさえ出来ません。その危険性が大きく膨らみ、健康を害し、原発事故や放射能汚染、科学物質による汚染、自然破壊、ひいては戦争まで巻き起こしてしまいます。私達はお金の力を信じるばかりに、あまりに人任せに、そして無責任になってしまいました。そ

して、そのことに慣れすぎて、自分達でしかけた罠にはまり破滅しようとしているのです。それは、便利さとお金の罠です。

ウォークやネイティブの祈りや自然農は現代社会から見ると、非合理的で意味のないことのように思えるかもしれませんが。しかし、前にあげたような、弊害があまりなく、リアルに直接的に世界を感じることが出来ます。世界の奇跡を毎瞬間感じられたりもします。その喜びを毎瞬間感じられれば、もっともっと、と思うことは無く、浪費し母なる地球を傷つけることも少なくなるでしょう！命の糧を得る過程を自分の精神と力でたどっていくことは大変だけれどもそこには、生かされている喜びとこのまま、子供達に、この命の喜びを伝えられるだろう！という実感があります。

ガソリンも電気もスーパーも全て否定するつもりはありません。ただ浪費しすぎ、任せすぎ、無責任過ぎが良くないと思うのです。WWFが発表しているエコフットプリントという考えかたがあります。地球の再生能力と私達の消費を見比べて計算するものです。今現在の世界人類の消費は地球の再生能力の約1・5個分なのだそうです。つまり、0・5個分の消費が毎年、生命再生能力からすると赤字なのです。生命の観点から言うと、毎年大赤字で暮らしている現代社会。もしも、世界中の人がアメリカ人と同じ暮らしをしたら地球は5・3個必要で、日本人と同じなら2・4個必要なのだそうです。

ですから地球ベースで考えると日本は消費を約41・6パーセントにしてアメリカは消費

を約18・8パーセントにしなければならぬことになります。この指標も大いに参考になると思いますし、日本中やアメリカを歩き、実際に感じて来たことから、このことは感覚的にも明確に分かります。命の視点から考えると、循環する持続可能な世界に転換していくことは日本もハードですが、アメリカはもっとハードです。

私達はその生命の理に人が戻っていく過程にある素晴らしさを知っていますし、それをシェアしたいと願っています。肉体と精神を統合することは、感覚的な充足感を与えてくれますし、私達が自然や大いなるものの一部であり、その恵みの中で生かされていることを感じられる事は無上の喜びであり感動で、感謝せずにはいられない事実です。私達は便利さとお金を妄信するあまり、人が本来もっていた、喜びや充足感を無くしてしまい、それゆえに欲望に走っていったのかもしれない。

私達はウォークという体験を通して、本来の生命としての人の喜びを知りました。そして、私達は生きているのではなく、全ての命の繋がりの中で生かされていることを知りました。謙虚に感謝し、心から祈るとき、大いなるものはいつも祝福してくれました。ネイティブの祈りは私達をもう一度その気持ちに戻れるように導いてくれました。

もちろん、歩いていく道には多くの困難や乗り越えなければならなかった多くの痛みがあり、自分の肉体と精神もだいたい調整しなければなりません。しかし、そこには、毎瞬間の喜びと感謝を体験し暮らしている鍵があったのです。

これから、日本には命の視点から見て、多くなる痛みと困難が待ち受けているように感じます。しかし、共に進みましよう！肉体と精神を統合し、母なる地球、命の理と共に生きられる持続可能な社会を共に築いていきましょう！方法はもう沢山示されています。命の理と共にある祈りや文化自然農や伝統的な暮らし、自然に負荷をかけない発電などの様々な智慧、違いや国境を越えた人との繋がりなどなど

私達が命の理と現代社会にあるギャップを埋めていくことが出来ますように！感謝と祈りのうちに私達が多く困難を共に乗り越えていくことができますように。大いなるものよ私達をお護りください、お導き下さい。

ホームタクエオヤシン <http://www.7gwaik.org>

続いている文章は

- ① 6月1日と12月7日に講演のあった神谷成章先生の農法を市民農園で実施してみた大 中洋道さんからの実験報告
- ② 名前のない新聞「編集長、浜田光さんの「EC」平和祭」のレポート。
- ③ 3・11の後すぐ石巻市に入り、カーシエアリング協会を立ち上げて被災者への車のサービスをし続けている吉澤武彦さんからの明日香村でのイベントのレポート
- ④ 神戸市東灘区自然食レストラン「愛農人」店主だった吉田博明さんご夫妻が移住された伊勢からのお便りその6
- ⑤ 教室めぐりは金曜夜のリラックス・YOGA受講生の豊田美津子さんのお話、そして、第一火曜午後の「ドリームマップ」講師の大江美香さんと受講生の皆さんの感想です。

## 神谷農法での市民農園での実験報告

大 中 洋 道

神谷先生の、無農薬、無化学肥料農法を始めて7ヶ月になりますが、うまく行っています。アジアの経済的に恵まれない国々に、井戸を贈るなどをするNGOにいたことがあるのですが、アジアの貧困の問題を突き詰めて考えると、農村の崩壊があります。ストーリートルドレンも、農村から都会に出てきた子供たちがとても多いのです。

ですから、アジアの貧困問題を考える上でも、豊かな農村の復活は大切なテーマになります。GOPの天下先生の話によると、カンボジアやベトナムフィリピンでは、神谷先生の農業技術を国策として取り入れて、予想をはるかに超える収穫があったそうです。カンボジアでは、前年の25倍の収量があったということですが、いかに壊滅の状態であったか分かります。これらの国に共通しているのは、日本に先駆けて、遺伝子組換え技術を導入していることだそうです。



日本の農業も、肥料代、農薬代がかからなければ、土の負担も軽くなり環境にも良いし、農家の収入も増えます。農業の平均年齢65歳ですから、10年後を考えて、真剣に国策として取り入れて欲しいものです。

農協で推奨される農薬の散布回数は、キュウリの場合74回にも及ぶそうで、食の安全、心身の健康という意味からも、神谷先生の農法は、

単に農業問題だけではなく、多くの日本の方々に知って頂きたいです。

私は、野菜を育てるのは初めてですから、市民農園に抽選で当選して、神谷先生の農法を試してみたいと言った時には、両親、姉からはそんな非科学的なことには手を出さないように言われました。でも、2月に、偶然が重なって、神谷先生の農園を拝見させて頂き、これはいけるのではないかと直感しましたので、反対を振り切って始めました。

キラエースという、好熱炭素菌が入った土を、パーク資材というものに混ぜて、土を作ります。数日毎に耕すと、好熱炭素菌が太陽の光と反応し土の中の雑草の種を焼いてくれます。ですから、夏場でもほとんど雑草は生えませんでした。キラエースとパークは、私は神谷先生の農園見学の時に紹介頂いた、「忍建材(株)」で購入しました。忍建材では、家を解体する時に、資源を再利用するために手作業でします。解体した資材を原料に使ってパークが出来ます。必要容量のキラエースとパークの量について電話で伺いますと、丁寧に教えて下さいました。3m x 5mの畑でキラエース2袋、パークは5袋で、送料も入れて、大体一万円ほどでした。

神谷先生が、ゴボウや、ニンジンはどうかと言われたので、その通りにしました。

キラエースとパークを入れて、5回土を耕すだけで、特に何もしませんでした。本当に雑草が生えないのでびっくりしました。

普通の有機肥料の土は、雑草が沢山生えました。その比較を次のURLで紹介しております。  
<http://dinner.nomaki.jp/yasai.html>

虫に食べられることもなく、甘いニンジン、50日ほどはあろうかと思うほど、勢いのある大きなゴボウの葉が茂って、回りの畑の方々が驚いておられました。

とても一人では食べきれぬ量ではないので、反対していた両親にも食べてもらおううちに、だんだん、理解してくれて、ギクシャクしていた関係も改善して良かったです。

トマトも、15cmほどで100円ほどで買った苗が、長さ2mの枝が8本ほど蛸の足の様に伸びて秋の終わりまで、ずっと実が付きまじた。回りの畑は、夏の終わりには枯れていたのですが私の畑だけは、いつまでも実がついていました。

秋には、ニンジンやゴボウを抜いたあとに、サツマイモを植えて、それも無事に収穫したので、次は、ブロッコリー、レタス、キャベツ、白菜、チンゲンサイ、春菊、エンドウマメ、ナスビ、カリフラワー、イチゴ、ジャガイモ、パジル、セロリ、パセリなどなど、思いつくままに、実験のために少量ですが、沢山植えてみました。採れた野菜をパックにして配ると喜ばれました。

冬になって、大根と小松菜を植えましたが、順調に育っていて、間引いた芽をおひたしにしたり味噌汁に入れ、自炊も楽しんでます。

今年の秋は、台風や長雨が多くて、土が流れ、最近では流石に、当初の効力がなくなってきたような気がしますが、半年間は楽しめました。

根菜類が長く育つように、土を柔らかくするために、カーボンバークエキス一号を使うと、わずか3週間で、突き刺さる棒の深さが80日→60日になり、ゴボウが長くなりました。ズブズブ、棒が刺さるのでびっくりしました。(神谷先生の畑は、土に棒が深く刺さりませう)この実験も、ホームページで公開しています。

日本の農業は赤字で、先の明るくない職業という認識は、神谷先生の農法では当てはまらず職業としないまでも、家庭菜園で食べきれないほど収穫出来て、配り上手、与え上手になり人間関係を円滑にするという、予想しない大きな収穫を発見することになりました。市民農園が借りられるのは2年間です。春にまた土を元気にさせて、もう一歩前に進めるように、神谷成章先生の農業の検証実験を楽しみたいと思っております。

## JEJU平和祭

### 名前のない新聞 浜田 光



サラ・シャンティに長らく置いてもらっている「名前のない新聞」は、1988年の「88のちの祭り」以来ずっと出してきましたが、去年後半はガンになり、はじめて半年ほどお休みしました。でも今年からまた復活し、最新号は184号となります。その号では、10月に韓国の濟州島で開かれた「JEJU平和祭」という

祭りを行ったので、その祭りのテーマでもあった「東アジアの平和を考える」を特集にしました。

濟州島、そして韓国には今回初めて行きましたが、火山島である濟州島が以前10年ほど住んでいた八丈島と地質的・植生的に似ていること、そして文化的、民族的にも近いものがあれこれ目について、違和感よりも懐かしい感じがしました。

さて濟州島は「平和の島」と呼ばれています。それは第二次大戦中、日本軍が全島に要塞や軍事施設をつくり、韓国でも一番その爪痕が残されていること、さらに第二次大戦直後の数年間には、3万人とも6万人とも言われる島民が「アカ」だとして韓国軍および右翼団体により虐殺された「4・3事件」があったからです。

この事件は韓国では長年タブー視されてきました。21世紀に入って故 盧武鉉大統領が韓国政府の非を認め、濟州島に来て島民の前で正式に謝りました。また犠牲者の名誉回復や真相糾明を宣言したそうです。こういったいさぎよい態度をとるのはとても勇気がいることだ、日本の指導者にはそんな器量のある人が見あたらないようです。

ところでこの「平和の島」濟州島に、いま海軍基地が作られようとしています。表向きは韓国の海軍基地ですが、米軍の空母が入れる規模で作っており、中国をならんだアメリカの戦略の一端を担おうとしているのは辺野古や京丹後の米軍基地と同様に明らかです。

この基地が建設されている場所は済州島の中でも貴重な生態系と美しい自然があった場所です。クロンビ岩と呼ばれる長さ1キロ以上におよぶ一枚岩があり、そこには20ヶ所もの泉がわき出して、絶滅危惧種などが生息する独特な生態系をつくっていたので、韓国の天然記念物保護区域やユネスコの生物圏保護区に指定されていきました。また先史時代から数千年にわたる遺跡が確認されており、村人達の聖地としても大切にされてきた場所です。

ところが基地計画が出るや、これらの指定は簡単に解除され、村人達の意向も聞かぬまま強引に建設が進められてきました。そして何年間もの反対運動に対して、韓国政府は座り込みや抗議をしていた数百人もの人達を逮捕し、また工事を妨害したとして数千万円の罰金を命じるという弾圧を加えています。

「JEU平和祭」では、この基地建設反対運動とクロンビの美しい自然を映し出している「クロンビ、風が吹く」というドキュメンタリー映画が上映されました。この映画は2013年の釜山国際映画祭で開幕作品として上映され、韓国での正式封切りは2015年2月の予定です。監督はチョ・ソンボン氏で4・3事件をテーマにした「レッド・ハント」などをつくった韓国のドキュメンタリー映画の第一人者です。

平和祭で映画を見た人達の中から、ぜひ日本でも上映したいという声が出て、来年2015年の3月に監督を招いて各地で上映会を開くツアーを計画中です。神戸ではサラ・シャンテ

イから近い（阪急六甲駅北口3分ほどの）神戸学生青年センターで3月14日（土）に上映会を開きますので、関心をもたれた方はぜひ見に来て下さい。

いまウェブサイトを制作中で、フェイスブックでもグループを作って情報を共有しています。各地の上映会情報その他詳細はこちらからご覧下さい。

<http://amanakuni.net/gureombi/>  
<https://www.facebook.com/groups/gureombi2015/>

### 石舞台は誰の墓？ 『時空を超えた飛鳥の記憶』 に隠れてみて、

吉澤 武彦



「多くの人たちに『飛鳥』に関心を持ってもらいたい」山田バウさん（元・神戸元氣村代表）のこの言葉から始まった奈良県明日香村の遺跡を巡る合宿『飛鳥の記憶』。エドガー・ケイシー製菓を扱う光田菜央子氏（有）テンプルビユーティフル社長）の協力のもと10月4、5日の日程で開催することができました。

明日香村は飛鳥時代が凝縮された村で地元ガイドの方と巡るだけで充分面白いのですが、私たちは、京都の高麗美術館の理事であり渡来文化研究家の鄭喜斗氏、チャネラーのレリア氏（以下、郷さん）、中村俊一氏（以下、俊さん）という、普通の観光ガイドとは視点も情報ソースも違う3人の方と共に明日香村を巡

る合宿を企画しました。

飛鳥時代をひも解き、渡来系の人達の存在感の大きさを知り、ボーダーレスであった時代を感じることを主軸の一つに置いたのですが、今回はサラ・シャンティさんの会報誌ということもあり、もう一つの軸であるスピリチュアルな側面から、この取り組みについて紹介したいと思います。

### 不確かなものを確かなように学ぶ歴史感

まず、古代史に触れて一番の私の発見は『実は、古代はまだまだ、わかっていないことだらけ』ということです。古代解釈のベースとなっている日本書紀は藤原不比等という中臣鎌足の次男が編纂したもので、時の権力者の視点で記述され、更に編纂後いろいろと手を加えられているとされています。また、現代の発掘調査もここ最近（50年程）の動きであり（高松塚古墳1972年、キトラ古墳1983年）まだまだ進んでいないのが実情なのです。

つまり、不確かなものを確かなものように私は歴史を学んでいたことに気づき、少し年を重ねた今、改めて思うのは『古代（飛鳥）にはロマンがある！』ということでした。

### 前日の祈り

さて、石巻のカーシェアリングの活動の合間に、色々といでを作り（関西から車を運ぶ途中に明日香村に立ち寄るとか）、夏の初めごろから明日香村へ足繁く通い準備を進めていき

ました。

開催日程が、ちょうど大型台風が上陸する日程にばっちりハマり、光田さん、ゲストの方々と前日入りした時、一つの興味深いことが起こりました。「明日香村に着いたら行けと言われているところがある。」ゲストの一人である俊さんが、(存在の)『声』を聞きそう言っていて、前日入りしたメンバーでその『声』に導かれるままに行きました。「ココだな・・・」

俊さんの祈りが始まった場所は、神社の脇にある普通の小道。祝詞が響くと郷さんがそれに呼応するように、チャネリング状態に入り(一見、酔っぱらったような様子)、私たちを順番に整列させて、普通の小道で祈りが始まった。近くに灯っていた神社の照明は、バチツと音を立てて消えてしまいました。あとで郷さんが教えてくれたのですが、「よくぞこの企画を実現させた」という風なことをその場の存在が言っていたと聞き、少しうれしく思いました。そんな感じで、合宿の始まる前から不思議さに満ちていました。

### 災害のない場所、明日香村

当日は、台風は間違いない接近&直撃しているものの、不思議なことに全く影響を受けず(雨すら降りませんでした)、実施されました。地元の方々から、「明日香村は歴史上、災害にあったことはほとんどなく、ここに住んでいると防災意識がほとんど生まれぬ。」といった話を聞きました。それを参加者全員で目の当たりにしたのでした。

### 実施したプログラムは次の通り

#### 一日目

1. 地元ガイドから、飛鳥時代について概要説明
  2. 渡来文化からみた飛鳥時代説明
  3. 飛鳥劇団「時空」による演劇「大化の改新」
  4. チャネラー2人+光田菜央子さんのトーク
- 二日目
1. 地元ガイド&ゲストと一緒に遺跡巡り
  2. シェアリング

#### 定説を覆す、メッセージの数々

プログラムの中で出てきたスピリチュアルメッセージの一部を紹介します。

- ・今よりも7倍強いエネルギーが明日香村には存在した。人々はそれを感じこの地を選んだ。
- ・飛鳥の時代はルネッサンスのような時代(新しいものを受け入れ、表現豊かな時代)
- ・一つ一つの石像物に深い信仰心や意味など感じられないものが少なくない。
- ・石の使い方が明日香だけの独自性があり、それが以降の日本で継承されていない。継承されていないものの代表が、石の噴水と水路
- ・石舞台古墳は蘇我馬子の墓ではない。明日香に集まるエネルギーが放出される場所。
- ・他の古墳群の象徴的なモノユメント(他の古墳が荒らされないためのカモフラージュ)
- ・甘樫の丘に蘇我氏の邸宅はなかった。
- ・聖徳太子は何人もいた。
- ・聖徳太子とキリストは関係がある。

### トイレ前のエネルギースポット

「今回の企画の大きなテーマである”明日香村/ポードールレス”を感じとれるスポットはココだと思う」俊さんが示したのは、とある民家のトイレの前。よく見るとアスファルトに小さなくぼみが生まれている。遺跡巡りのフィールドワークの中で、そのポイントに一人ひとりが立って、飛鳥のエネルギーを感じていただきました。中には、自分が過去世で明日香村に住んでいた、家族を残して離れるつらい経験をしたことをそこで思い出した人などいました。

### 歴史調査にスピリチュアルを

#### 導入する社会的な包容力を

今回の取り組みを通して、改めてスピリチュアルを歴史調査に導入するのはとても面白い試みだと思いました。

先に紹介したように簡単に「定説」を覆してしまうのです。歴史書や遺跡からは、なかなか生まれぬ大胆な発想がそこにはありません。

「知識」ある人は、裏付けを並べ立て、そうした新しい説を攻撃し、スピリチュアリティ自体について不信をたたきつけるかもしれません。そういう意味では、今回ご協力いただいたゲストの皆さんは、勇気をもって協力いただいたと思います。

ただ、私は、今私たちが学んでいる歴史そのものに真実はないと思えてしまうがあります。どのみち、不確かな世界なら、私は「真面目に」歴史をひも解く活動にスピリチュアリテ

イを生かしてみてもどうかと思っっています。

当然そこには、安定性や正確性がない場合も多いでしょう。しかし、正攻法のやり方では辿り着けないショートカットが生まれるような気がします。そして、少なくとも夢と発想が広がりに人々の関心が集まることは間違いないと思います。人の能力、社会の中で活かせるものは、活かしていかないと！

チャネラーの方々に協力いただけるようでしたら、私はぜひこの続きを行いたいと思います。

## 伊勢からの便り その六

吉田 博明

三重県東南部の紀北町は、2005年、紀伊長島町と海山（みやま）町が合併して誕生した、森林面積90%、人口17,529人の自然豊かな林業と漁業の町です。昨年高速道路路紀勢道が熊野市まで開通したため、伊勢市からは1時間あまりと、身近な地域となりました。

熊野灘に面した東側は、リアス式海岸に沿って点在する島々が、景勝地として知られる東北の松島を連想させることから、「紀伊の松島」と呼ばれています。沖合は北上する黒潮が紀伊半島にぶつかり、大きな窪となっているため、沿海魚、回遊魚が集まる日本有数の漁場を形成しています。西側はブナ・カツラ・シイなどの落葉樹、常緑



樹の原生林におおわれた「大台ヶ原」の山並みがつい立てのようになっています。

そして、南北には聖地熊野三山へと続く世界遺産、熊野古道伊勢路のツツラト峠・荷坂峠・三浦峠・始神（はじかみ）峠・馬越（まごせ）峠の五つの峠を越える参詣道が通っていて、随所で熊野灘の絶景を眺めることのできるヘルスウォーキングコースとして親しまれています。

また、始神峠と馬越峠の間には、2000年2月、国内で最初にFSC「森林認証」を取得した速水林業所有の大田賀（おおたが）山林が再生産可能な森林管理のモデルとして登録されています。

FSC (Forest Stewardship Council) とは、ドイツのボンに本部のある国際機関・森林管理協議会から、森林環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなう事業で持続可能な形で森林が管理されていると認められた山林に与えられる認証林のことです。

この森林から伐採された木材で作られた家具などの加工品や紙製品なども認証の対象となっています。

「大台ヶ原」は熊野灘で発生した積乱雲が直接山並みにぶつかることで、大雨を降らせ、年間降雨量が4000mmを超える、日本では屋久島と並ぶ多雨地帯です。多量の雨は苔によって大地に貯えられ、森を育て、ミネラルなどの養分をたっぷり含んだ水が、森と海をつなぐ銚子

川・赤羽（あかば）川となつて、下河内（しもこうち）里山地帯（紀伊長島地区）などの大地を潤し、熊野灘へと注がれています。

銚子川は「大台ヶ原」（堂倉山）を水源とする全長18kmの比較的小さな二級河川です。源地から急こう配の山肌を岩盤質の谷底へと水が滝のように一気に駆け下り、清流となる中流域では、千畳敷、魚飛（うおとび）溪谷などの変化に富んだ岩とエメラルドグリーンの水が織りなす感動的な景観を目にすることができます。

銚子川の流域人口は海岸近くの3500人と少なく、途中ダムもなく、生活排水などの水質汚染源がないため、河口部でも養分を含んだ透明度の高い澄みきった水が流れています。このため、河口部の「白石湖」（周囲5kmの汽水域）では、臭みのない極上の「渡利牡蠣」が養殖されていますが、生産量が限られているため「幻の牡蠣」として貴重な特産品となっています。

淡水魚に魅せられたネイチャーフォトグラファーの内山りゆう氏は、水に関わる生き物とその環境の撮影をライフワークとしながら、日本全国の川を訪ね歩き、数多くの図鑑や写真集を出版しています。22年前、日本で初めてとなる「アユ」の写真集を出版するため、紀伊半島の川を潜っているとき、銚子川と出会いました。

昨年テレビで放映された長編ドキュメンタリーの中で、この川でしか見ることのできない銚子川ブルー（エメラルドグリーンの水の色）

や汽水水域（河口部）でのゆらゆら帯をはじめ、流域に生息する天然アユ、アマゴ、ヒラテナガエビ、ナガレヒキガエルなどの生態環境が美しい映像で紹介されていました。ゆらゆら帯とは、海水と真水の比重の違いによる光の屈折率の差が入り乱れるため発生する現象で、透明度の高い澄んだ水域でしか見られません。中でも、「アユ」の遡上シーンは圧巻で、海と川をつなぐダイナミックな自然の営みが手に取るように映し出されていました。

1994年5月、銚子川の平尾淵前に地元の便の山（びんのやま）地区出身の上村権兵衛の遺徳をしのぶため、「種まき権兵衛の里」（3000m）がオープンしました。三重県では最大の日本庭園で、展示室・茶室・資料館を備えた交流施設です。

江戸時代、武士の子として生まれた権兵衛は、幼いころから武芸に励んでいましたが、父親の望みで農家を引き継ぎ、愚直に荒地を開墾し、やがて村一番の篤農家となりました。また、農閑期には、猟銃を携えて、山野を駆け巡り、いつしかその腕前が熊野全域に広まり、紀州藩主に認められる存在となりました。

当時、熊野古道伊勢路馬越峠の天狗倉山（てんぐらやま）に大蛇が出没し、人々に恐れられていましたが、権兵衛は勇敢にも一人で大蛇退治に出かけました。当時の銃では、固い皮膚のため大蛇に致命傷を負わすことができず、最後に懐に持ち合わせていた「ズンベラ石」を大蛇の額に投げつけ、退治したと地元では伝えられています。

しかし、その際大蛇の毒を浴びたため、身体中が腫れ上がり、ついに還らぬ人となったそうです。毎年3月20日春分の日に開催される「種まき権兵衛祭り」では、ユーモラスな野良着に頬被り姿で踊る、地元の人による俗謡のゆったりしたリズムに乗った権兵衛踊りには、とても親しみを感じます。

権兵衛さんが種まきや カラスがほぜくる  
三度に一度は追わずばなるまい  
ズンベラ、ズンベラ、ズンベラ、ズンベラ

「熊野古道伊勢路物語」、「ニッポン豊穡紀行」などの著書を出している食の達人であり作家の甲斐崎圭（かいぎきけい）氏が熊野灘の豊かな漁場を紹介したテレビドキュメンタリー「海を喰う・山を喰う」（熊野灘、知床羅臼を行く）が、今年初めに放映されました。

甲斐崎氏は「人間を含めて、生き物は大地と海の恵みで命を継いでいく。自然は地球の主人公、食卓のすぐ向こうに存在する自然と手をつないで生きていきたい。」との思いから、自然との共生が実感できる熊野灘に魅せられ、8年前紀北町に隣接する尾鷲市大曾根浦に移住しました。

乱獲を防ぐため三重県で一隻だけ認可されている紀伊長島港を母港とする沖合底引き網漁船「甚昇丸（じんしょうまる）」に乗船して、ノドグロ、アラマス、ヤリイカ、オキナマコ、アカゴチなどの多種類の沿海魚が水揚げされる様子がこの中で紹介されていました。料理歴30年の甲斐崎氏は、熊野灘の海の幸を味わっ

てもらいたいと、本業のかたわら自宅で「餐魚洞（さんぎょどう）」と名付けた魚料理屋を、常連客を対象に予約のみで開業しています。

普段見たことのない種類の魚を手際よく調理する様子を見ながら、熊野灘の豊かな漁場を改めて認識させられました。このドキュメンタリーの中では、甲斐崎氏が熊野灘と同様、第二の故郷と思っている北海道知床半島羅臼の自然環境についても紹介されていました。

2000年2月、中部電力芦浜原子力発電所（南伊勢町）の建設計画が37年に及んだ反対闘争の末、三重県議会会で白紙撤回されました。この代替地として、海山町では商工会の働きかけなどで、当時の有権者5600人（64%）の賛同者名簿と共に、大白浜（おおじろはま）原発誘致の賛否を問う住民投票の条例案が海山町議会に提出され、審議された結果、誘致賛成12票、反対5票で可決されました。

しかし、2001年11月の住民投票（投票率88.6%）では予想をくつがえして、反対5212人、賛成2515人で、有権者総数の59.6%が誘致に反対し、原子力発電所計画は否決されました。投票日一か月前に起きた中部電力浜岡原発一号機での配管破断事故が賛否を大きく左右したといわれています。熊野灘を望む海山町大白浜や紀北町を訪れるたびに、原子力発電所誘致を否決した海山住民の良識と勇氣に敬意の念を感じさせられています。

人口減少・超高齢化・少子化・大都市への人口が集中する極点社会化への懸念などの問題

が、先の見えない格差社会を拡大させてきています。このままグローバルゼーションの潮流に乗って、経済中心のマナーゲーム化した拡大再生産の競争を続けなければ、「日本を取り戻す」ことはできないのでしょうか。

ここ数年地元では、価値がないと思われていた「伝統文化」「食」「自然」を生かした地域活性化の事例が、静かな変革の波として、あちらこちらで台頭してきています。その日の朝収穫された新鮮な食材がその日のうちに食卓に登場し、再生可能なエネルギー資源としての森林に恵まれた紀北町は、これからのエコ・コミュニティ・タウンのモデルとなる、可能性と希望に満ちた地域といえます。

## 週末の夜はリラックス

### 金曜夜 リラックスYOGA

豊田 美津子

金曜日は午後4時に仕事を終えると、急いで家に帰り、洗濯物を取り込み、お風呂にお湯を張り、夕食の支度をして、サラ・シャンティに向かいます。今年の8月から、金曜日の夜の永見静香先生の「リラックスYOGA」を受講させていただいています。

休みの前の日なので、疲れた身体を引きずり、教室にたどりつき、ガチガチ



に固まった身体をできる範囲で動かしているうちに、だんだんほぐれてくるのがわかります。

最後のリラクゼーションのひとつときはいつもぐっすり眠ってしまい、目覚めるとスッキリと爽快感を味わうことができます。

サラ・シャンティとの最初の出会いは、息子が学童保育所どんぐりクラブに入所した年のどんぐり寄席でした。九雀さんの落語を聴いて真っ赤な顔をしてお腹を抱えて笑い転げていた息子も今は高校2年生です。「なんと心地よい空間だろう。」とその時感じたのですが、しばらくして、水曜日午前中の三宅先生の姿斉（当時は中庸）とヨガのクラスに通うことになりました。

いつからだったか思い出せずにはいましたが、書類ケースの中にあつた、古い会員証を見つけたことができ、それによると平成18年5月に入会していました。

片道1時間かけて大阪まで通勤しフルタイムで働いていた私にとって、平日の休日である水曜日は自分のために使うことができる貴重な一日で、午前中は清涼感あふれるサラ・シャンティさんのスペースで姿勢のレッスンを受け、近くのΦ（フィー）さんでランチにギリ井（ギリシヤ井）をいただき、坂を上って癒しのスペース、Ratogaさんでゆっくりコーヒーを飲みながらクールダウンして帰ることでリフレッシュできていたのです。

ところが、定年まで働き続けるつもりだった会社を、3年前の暑い夏の日我突然思い立ち早期退職することを決め、年末に退社してしまい、平日の休日はなくなって、しばらく毎日が休日

の日々でした。専業主婦生活を楽しんだのもつかの間、パートの職を得て働き始めてからは、水曜日の午前中のレッスンを受けることはできなくなりましたが、幸い三宅先生が別の場所で開講してらっしゃった夜の教室に通うことができ、引き続き姿勢のレッスンに通い続けることができていたのです。

サラ・シャンティの姿勢クラスを受講していらっしゃる方々は長年続けていらっしゃる方ばかりで、皆さんとても美しい無駄のない体型で、心身のバランスが整っていて、私も続ければ、あのようなになれるのか、と入会当初は期待したのですが、週に一度のレッスンに通うだけでなく普段の努力も必要なのだと思知らされました。日々の努力を実践できずに過ごしてきたことが悔やまれます。

三宅先生が夜のレッスンを引退されることになり、今まで教えていただいたことを思いだしながら、テキストも見て、家で毎日少しづつ姿勢を続けていかなければと心に誓ったのですが、自分に甘い私のこと、週に一度でも身体を動かしていたからこそ、減量はできないまでも、体重は“現状維持”で推移してきたというのに、それがなくなると、爆発的に体重が増えてしまうのではという不安に苛まれ、ネットで初心者向けのヨガの教室を探し、結局たどり着いたのが、サラ・シャンティの金曜日の「リラックスYOGA」だったということで、またお世話になることになりました。

去年の秋に痛めた膝がまだ完治せず、正座ができない状態なのですが、三宅先生の16痛む時



は身体が動かすなど教えてくれている」という言葉を思いだしながら、無理をししないで、続けていきたいと思っています。

「リラククスYOGA」は夜の教室で、ゆったりとした時間を過ごして、心身をリセットすることが出来ます。永見先生にご指導いただいている通りには、身体がついていきませんが、自分のペースでゆったりとした気分です。リラククスとして身体をほぐすことができるひとときなのです。

ほどよく疲れて帰ると、週末の夜は横になると一瞬で眠りにつき、熟睡することが出来ます。サラ・シャントイで過ごす時間は私にとって、家事、仕事で疲れた心と体を癒してくれる貴重なひとときとなっています。いつまでも続けていきたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

## 夢を叶える「ドリームマップ」

### あなたの夢の実現の扉の

鍵は何でしょうか……？



講師：大江美香

ドリームマップとは、ビジョンボードとも呼ばれ、本や雑誌の中の気に入った写真や絵、デザインの切り抜きを、一枚の紙（A3ぐらい）に好きなように貼りつけて、自分のビジョンを具体的に目で見られるようにする手段です。

あとは、作成したドリームマップを自分のよく見えるところに貼っておくだけです。自分のビ

ジョンを視覚化し実現してしまえば、そこに至る道についてあれこれ心配しなくても、潜在意識が夢にも思わなかったような方法で、あなたの夢を実現させてしまおうのです。

- ① 自分の中から、明確で鮮明なビジョンを引き出す。
- ② 毎日のイメージングが簡単に出来る。
- ③ 自分の本音を知ることが出来る。

さらに、貼り方や色使いから、現在の問題や自分の中に潜む思考パターンを分析することも可能です。まずは、遊び感覚ではじめて見て下さい。

明確なビジョン（＝望み・目的・諦めきれないもの）から生まれた強力な意識（感情エネルギー）こそが、夢の実現の扉を開く鍵となります。そこに至る方法は、強力な意識の後ろについてくるものなのです。

\* 参考文献 ジョン・アサラフ、マレー・スミス『THE ANSWER』

### ● 人生の最も大きな宝物 ●

人にはそれぞれ、その人に与えられたビジョンがあり、ビジョンに向かってその道を行けば、その人の本当の幸せを手に入れることとなります。ビジョンから外れた道を追いかけても、何も達成できないし、たとえ達成しても、その後、あなたに必要なことがなかったことを知ってしまう。

あなたの本来のビジョンは、毎日を夏休みのような毎日に変えてくれます。またビジョンが達成するために必要な条件が満たされ、ビジョン

を阻む問題をも見事に解決してくれます。その上その成果は、あらゆる期待を上回るものとなります。

### 講座受講者3名の感想

#### Aさん

3年ほど前に友人に誘われてドリームマップを始めました。最初に、お気に入りの雑誌等の写真を切り抜いて、カラーージュを作ると聞いていたので、美術教室に通っているつもりで懸命になって綺麗なカラーージュを作っていました。

それから、回を重ねていくうちにドリームマップ教室に流れるゆったりした時間は、普段忙しくしている私にとって自分自身を感じられる貴重な時間となりました。そうすると、普段は意識していないけど心の中で願っていることや将来への夢が自然にカラーージュに現れるようになり、私の「ドリームマップ」になっていきました。「ドリームマップ」には私の願いが詰まっているので、見ている心地よさの中まで浸透してきます。

私には、海外で一人暮らしをしている娘がおりまして、早くよい伴侶が見つければいいなと願いを込めて、ドリームマップの中に毎回ブーケを貼っていたところ、この度よい伴侶に恵まれ結婚いたしました。まさしく私にとつての「ドリームマップ」が完成した気分です。これからもドリームマップで夢を叶えていきたいと思っています。

.....

## Bさん

ドリームマップに出会い、その後すぐに子宝を授かることができました。結婚して6年目で自分の中ではやれる事はやったし、ちよっと疲れたなあと思っていた頃でした。偶然ドリームマップに誘っていただき「楽しそうだな」と思っただけで参加したのが奇跡の始まりでした。難しい理論もなく、好きな写真や絵を切り貼りするというすごく単純なことですが、その過程で混沌としていた自分の頭の中がクリアになっていくのがわかりました。

出来上がったドリームマップを毎日見ているとすでに夢が叶った気分になっていましたが、その後あつという間に夢が現実になりました。ドリームマップに出会えた事に本当に感謝しています。これからもずっと続けていきたいです。

## 世話人 伊集院 久子

より良く生きたい、夢を実現させたいと思いはるんなことをやってきました。

夢中にやって上手く行くこともあるのですが、本当の望みは何だろうか？ミッションは？もつと幸せになりたい！という思いが消えることはありませんでした。そんな中でドリームマップに出会いました。

コラージュとも言われ、専門家が治療にも使う心理学的手法であることを知り、5年くらい前から毎月一回作っています。以前は占いやリーディングといったスピリチュアルなことに

答えを求めたこともありましたが、今は知りたいたいことは全て自分の作ったドリームマップの中にある、と確信を持つようになりました。

毎回同じことをしているようで仕上がるまでの過程も違い、全く違う作品ができ、思いのこもった作品を見るのも楽しくて、飽きることはありません。参加者全員で感想をシェアし、講師の大江さんからのコメントをもらいます。みなさんの言葉から励まされたり、新たな気づきがあったり。シェアする内容がとても素晴らしく、お互いの信頼がまして全体がとても暖かいくいい雰囲気になります。

毎月作り続けること・出来た作品も見続けることで、良い思いにフォーカスでき、心が安定し迷いが減ってきました。回を重ねるごとに、目標や夢が実現したり、悩みが解決しただけでなく予想以上に嬉しいことが起こったり、周りにどんどん起きています。

私自身、本当の夢・ミッションや仕事明確になって、実現する方向に進んでいます。「多くの人の夢が叶うこと」も私の大切な夢の一つ。参加者の夢が叶っていくことが、本当に嬉しいです。

ドリームマップで自分の夢もみんなの夢も叶えていって、心も体も健康で喜びや信頼を共に分かち合う、こんな素敵な仲間がどんどん増えていったらいいな〜と思っています。幾つになっても、生きている限りドリームマップを作り続けようと思います。

## 編集後記

この冬は雪国では積雪量が多いようです。ここ六甲でもペランダのバケツの水が1センチくらい凍る日がありました。選挙も終わり、世の中は年末から年始へと移っていきます。選挙では、経済のことがとても前面に出ていたように思います。

福島で起きたことは、今も終わっていません。原発一基を廃炉にするためには、多くの優秀な素晴らしい人材とその下で働くさらに多くの方々の日々の危険も伴う労働があります。3・11を経験した日本には廃炉技術で世界の優秀な人々と協力し、日本のため、そして世界のために確固とした技術を確立する必要があると思います。その技術は今どのあたりにあるのでしょうか？この大切なことがあまり報道されていないのは何故でしょうか？

グローバルイズムというのなら、この世界中にある後始末の技術が確立されていない原発の廃炉などの急ぎで必要な技術の、更なる発展のために、国連などでどんどん会議をして、資金を調達しあつていかないと時間が足りないのではないのでしょうか？次の事故は起こってはならないけど、起こらないという保証はありません。意味もなく恐れるのは何の役にも立ちません。だからこそ、この国は作ってしまったものの後始末がきちんとできる国だという任せられる安心感を持って新しい年を迎えたいものだと願ってやみません。

清水 和子

